

公民科（倫理）ロードマップ

倫理	
期待する生徒像	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 自他を大切に扱う心を忘れない生徒 ◆ よい生き方のモデルをもち、それに近づこうと努力する生徒 ◆ 自己中心的ではなく、良識ある行動をとることができる生徒

大項目	中項目	単元	単元のねらい (身に付けさせたい力等)	【単元を貫く問い】	題材例	
(1) 現代に生きる自己の課題		①青年期の課題と自己形成	自己と向き合い、課題を自覚させた上で、独り善がりではない価値観等を形成することの必要性に気付かせる。 (自己を客観視する力、他者を評価し、自己を肯定する態度、諸課題を多面的に捉える力)	青年期の課題を理解させた上で自己を客観視させる。 (自己を客観視する力)	【「自分探し」を止められないのは何故だろう】	『卒業』の歌詞 『罪と罰』、 『人間失格』からの抜粋
		②自我の形成と他者	他者を評価し、他者との関わりの中で自身を評価させることにより自己肯定感をもたせる。 (他者を評価し、自己を肯定する態度)	【「自分になる」とはどういう意味だろう】	他己紹介シート アクティビティ「わたしを見つめる4つの窓」	
		③現代の倫理的課題とのつながり	現代の倫理的課題を通して自己の課題を自覚させ、その解決策に関心をもたせる。 (諸課題を多面的に捉える力)	【人間はどのように生きればよいのだろう】	「子ども・若者白書」(自己・学校生活・職場の満足度)	
(2) 人間としての在り方生き方	ア 人間としての自覚	①ギリシアの思想	人生への問いの重要性や人間の存在や価値について、自己の課題と結び付けて考えさせる。 (理性的・論理的思考力)	【「善く生きる、美しく生きる」とはどのように生きることだろう】	「愛」とはなにか(プラトンとモンテーニュ)	
		②キリスト教	「神の愛」や「隣人愛」の教えを通し、人間としてのよりよい生き方について、自己の課題と結び付けて考えさせる。 (他者を理解し受容する態度)	【律法の完成とはどのような状態を指すのだろうか】	「山上の垂訓」(『新約聖書』「マタイの福音書」第5章～第7章)	

大項目	中項目	単元	単元のねらい (身に付けさせたい力等)	【単元を貫く問い】	題材例
(2) 人間としての在り方生き方	ア 人間としての自覚	③イスラーム	相互扶助など共同体の在り方や人間相互のつながりについて、自己の課題と結び付けて考えさせる。 (利他の姿勢への共感)	【イスラームとは何を意味するのだろうか】	『クルアーン』及びハディースからの抜粋
		④仏教	智慧と慈悲の教えを通し、人間としてのよりよい生き方について、自己の課題と結び付けて考えさせる。 (生命への畏敬の精神)	【人が苦しみから逃れられないのはなぜだろう】	仏陀の言行 『よだかの星』
		⑤儒教	望ましい人間関係や社会の在り方について、自己の課題と結び付けて考えさせる。 (多面的な思考力)	【理想的な人間関係とはどのようなものだろう】	『論語』 性善説と性悪説 老荘思想との対比
		⑥芸術	芸術家がどのように生き、思いをどう表現したかについて、自らの生き方と関わらせて考えさせる。(美なるものへの共感)	【芸術作品が心を揺さぶるのはなぜだろう】	『ゲルニカ』 他ピカソの作品
	イ 国際社会に生きる日本人としての自覚	①日本の風土と伝統	我が国の伝統と文化などに触れながら、それらを尊重する態度を養い、日本人の考え方の特性を自己形成の課題と結び付けて学ばせる。 (日本人としての自覚)	【日本人の美意識とはどのようなものだろう】	「横綱の品格」 (横綱審議委員会での議論等)
		②外来思想の受容 ア) 仏教	我が国が古来より仏教を受容し、独自に展開したことについて触れながら、日本人の思想形成に及ぼした影響を自己の課題と結び付けて考えさせる。 (寛容・共生の精神)	【なぜ仏教は日本において心の拠り所となったのだろうか】	『平家物語』 日本人の死生観・無常観
		イ) 儒教	我が国が儒教をどのように受容して、役立てたかについて触れながら、日本人の思想形成に及ぼした影響を自己の課題と結び付けて考えさせる。 (道德心)	【日本人の考える徳とは何だろう】	『武士道』 知行合一
		ウ) 西洋近代思想	西洋文化摂取後の近代思想に触れながら、それらが日本人の思想形成に及ぼした影響を自己の課題と結び付けて考えさせる。 (論理的思考力)	【西洋の近代思想はどのようにして受け入れられたらう】	西周の訳語

大項目	中項目	単元	単元のねらい (身に付けさせたい力等)	【単元を貫く問い】	題材例
(3) 現代と倫理	ア 現代に生きる人間の倫理	①人間の尊厳と生命への畏敬	先哲の思想を手がかりに、人間の尊厳の根拠や生命の深遠さについて、自己の課題と結び付けて考えることで、倫理的な見方や考え方を身に付けさせる。 (人間の尊厳・生命への畏敬の念を重視する態度)	【人は殺生せずに自らが生きることはできるのだろうか】	サティヤークラハ 『ブタがいた教室』
		②自然や科学技術と人間との関わり	先哲の思想を手がかりに、人間は自然との関わりにおいてどのような態度で生きればよいか、また、科学技術をどのように利用していけばよいかについて、自己の課題と結び付けて考えることで、倫理的な見方や考え方を身に付けさせる。 (論理的思考力, 多面的な思考力)	【科学的・合理的な思考とはどのようなものだろうか】	イドラ 「法律家のパラドクス」
		③民主社会における人間の在り方	先哲の思想を手がかりに、個人と社会・国家・法との関わりについて、自己の課題と結び付けて考えることで、倫理的な見方や考え方を身に付けさせる。 (価値判断力, 意思決定力)	【安全と自由のどちらが大切なのだろうか】	社会契約説(ホッブズとロック) 『漂流教室』
		④自己実現と幸福	先哲の思想を手がかりに、個人の幸福と社会全体の幸福との調和について、自己の課題と結び付けて考えることで、倫理的な見方や考え方を身に付けさせる。 (解釈する力, 論理的思考力, 意思決定力)	【道徳的な振る舞いとはどうあるべきだろうか】	「大津波」 (モラルジレンマ教材)
		⑤個人と社会との関わり	人類愛や社会的連帯の思想に基づいて行動した人々の考え方を手がかりに、社会参加と奉仕の意義について、自己の課題と結び付けて考えることで、倫理的な見方や考え方を身に付けさせる。 (奉仕の精神, 他者への共感)	【どのようなときに人は生きがいを感じるのだろうか】	「風に立つライオン」

大項目	中項目	単元	単元のねらい (身に付けさせたい力等)	【単元を貫く問い】	題材例
(3) 現代と倫理	イ 現代の諸課題と倫理	①課題探究学習 I 〔例〕「情報社会を考える」	<p>情報社会における倫理的課題を自己の課題とつなげて探究する活動を通して、論理的思考力や表現力を身に付けさせるとともに、現代に生きる人間としての在り方生き方について自覚を深めさせる。</p> <p>(論理的思考力, 表現力, 批判的思考力)</p>	<p>「単元を貫く問い」については、生徒が設定する。</p> <p>〔例〕スマホは私たちが幸せにしているだろうか</p>	<p>題材の設定及び資料の収集はグループごとに行う。</p> <p>〔例〕情報モラル, 情報リテラシー, 人間関係の変化, グローバル化などに関するもの</p>
		②課題探究学習 II	<p>倫理的課題を自己の課題とつなげて探究する活動を通して、論理的思考力や表現力を身に付けさせるとともに、現代に生きる人間としての在り方生き方について自覚を深めさせる。</p> <p>(論理的思考力, 表現力, 批判的思考力)</p>	<p>「単元を貫く問い」については、生徒が設定する。</p>	<p>「生命」, 「環境」, 「家族」, 「地域社会」, 「文化と宗教」, 「国際平和と人類の福祉」などにおける倫理的課題の中からテーマを選択(学校, または学級単位, または生徒個々の選択)</p>

公民科 単元デザイン

科目

倫理

期待する生徒像		<ul style="list-style-type: none"> ◆ 自他を大切に扱う心を忘れない生徒 ◆ よい生き方のモデルをもち、それに近づこうと努力する生徒 ◆ 自己中心的ではなく、良識ある行動をとることができる生徒（納得解に基づく価値観を有している生徒） 	
(1) 現代に生きる自己の課題			
単元	自己への問い	ねらい	自己と向き合い、課題を自覚させた上で、独り善がりではない価値観等を形成することの必要性に気付かせる。
この単元で身に付けさせたい力等		・自己を客観視する力 ・他者を評価し、自己を肯定する態度 ・諸課題を多面的に捉える力	
【単元を貫く問い】		【人はなぜ悩むのだろう】	
		授業における主な活動	評価場面◎
第1次 青年期の課題と自己形成 ねらい 青年期の課題を理解させた上で、自己を客観視させる。 ◇核となる問い ◇「自分探し」を止められないのはなぜだろう。 授業における主な活動 <題材案> ・『卒業』の歌詞 ・『罪と罰』、『人間失格』からの抜粋 <主な言語活動> ◎今の自分について、箇条書きで説明文を書く。 ・説明文を基に自分を紹介する（ペアワーク）。 ・「本当の自分」に○を付ける。	第2次 自我の形成と他者 ねらい 他者を評価し、他者との関わりの中で自身を評価させることで自己肯定感をもたせる。 ◇核となる問い ◇「自分になる」とはどういう意味だろう。 授業における主な活動 <題材案> ・他己紹介シート ・「わたしを見つめる4つの窓」 <主な言語活動> ◎他己紹介文（箇条書き、ペアワーク）を書いた後に交換し、気に入った内容に○を付ける。 ・アクティビティを行い、改めて自己を見つめる。	第3次 現代の倫理的課題とのつながり ねらい 現代の倫理的課題を通して自己の課題を自覚させ、その解決策に関心をもたせる。 ◇核となる問い ◇人間はどのように生きればよいのだろう。 授業における主な活動 <題材案> ・「子ども・若者白書」（自己・学校生活・職場の満足度） <主な言語活動> ・自己の悩みや課題に通ずる内容を取り上げ、隣同士で感想を言い合う。 ◎最も関心をもった課題について、解決の指針を記述する。	
評価観点	関心・意欲・態度	評価方法	ワークシート
		評価規準	<ul style="list-style-type: none"> ・自己を客観視した説明文を多く書くことができる。 ・他者のよいところを多く見つけ、説明文として書くことができる。 ・課題解決について複数の指針を示すことができる。

公民科 単元デザイン

科目

倫理

期待する生徒像		<ul style="list-style-type: none"> ◆ 自他を大切に扱う心を忘れない生徒 ◆ よい生き方のモデルをもち、それに近づこうと努力する生徒 ◆ 自己中心的ではなく、良識ある行動をとることができる生徒（納得解に基づく価値観を有している生徒） 	
(3) 現代と倫理 ア 現代に生きる人間の倫理			
単元	④自己実現と幸福	ねらい	先哲の思想を手がかりに、個人の幸福と社会全体の幸福との調和について、自己の課題と結び付けて考えることで、倫理的な見方や考え方を身に付けさせる。
この単元で身に付けさせたい力等	・解釈する力 ・論理的思考力 ・意思決定力		
【単元を貫く問い】	道徳的な振る舞いとはどうあるべきだろう		
授業における主な活動		評価場面 ◎	
第1次 モラルジレンマ教材の提示と活用する先哲の思想の紹介 <配付資料> ・モラルジレンマ教材「大津波」 ・カント、ベンサム、ミルの説く「道徳的行為」 <主な言語活動> ・課題に関する考えをグループ内で交流する。	第2次 先哲の思想を活用した課題解決 <配付資料> ・ワークシート「道徳的な振る舞いとは」 <主な言語活動> ・各グループに3人の先哲のいずれかを割り当て、その思想家の説く道徳的行為に照らし合わせてAさんの取るべき行為について話し合う。	第3次 グループ発表と意思決定、成果の共有 <主な言語活動> ・各グループの代表者がAさんの取るべき行為について発表する。 ◎各グループの発表内容も参考にし、Aさんの取るべき行為について、根拠を明らかにした上で各自の意思を決定する。	
<p>大津波（概略） Aさんは大学卒業後に帰郷し、救急隊員としてB市消防局に勤務している。彼は「救急隊員となり人命救助に貢献すること」という夢をかなえたのであった。…一方、私生活では、3年前に結婚して自身の家庭を築き、出産間近の妻と2歳になる子どもに囲まれ、充実した日々を過ごしていた。ある日の午後、非番だったAさんは、電車で1時間ほどのC市へ買い物に出かけた。そして買い物を終え、家路に着こうとした正にそのとき、大きな地震が起こった。…震源地はD湾であることが分かった。あわてて勤務先の消防署に電話をかけてみたが繋がらず、今度は自宅にいるはずの妻に電話をかけてみたものの、やはりつながらぬ。…市街地の電光掲示板に衝撃的なニュースが流れた。自宅のあるE町で、津波が発生したと言うのだ。家屋は倒壊し、電車も普通になり、多数の死傷者が出ている模様で、町は壊滅的な状態とのことであった。…一刻も早く消防署に駆けつけて、災害対策に当たらなければならない。しかし、一方では安否の確認が取れない家族のことも気になる。…自宅のあるE町に向かうか、消防署のあるB市に向かうかの決断ができないまま、Aさんは岐路に来てしまった。『Aさんは、どうするべきですか。自宅に行くべきですか？消防署に向かうべきですか？』</p>			
評価観点	思考・判断・表現	評価方法	ワークシート
		評価規準	・道徳的な行為とはどのようなものかについて、先哲の思想を正しく解釈できる。 ・Aさんの取るべき行動が、先哲の思想を根拠に正しく導くことができる。

公民科 単元デザイン

科目

倫理

期待する生徒像		<ul style="list-style-type: none"> ◆ 自他を大切に扱う心を忘れない生徒 ◆ よい生き方のモデルをもち、それに近づこうと努力する生徒 ◆ 自己中心的ではなく、良識ある行動をとることができる生徒（納得解に基づく価値観を有している生徒） 	
(3) 現代と倫理 イ 現代の諸課題と倫理			
単元	課題探究学習Ⅱ	ねらい	倫理的課題を自己の認識とつなげて探究する活動を通して、論理的思考力や表現力を身に付けさせるとともに、現代に生きる人間としての在り方生き方について自覚を深めさせる。
この単元で身に付けさせたい力等		・論理的思考力 ・表現力 ・批判的思考力	
【単元を貫く問い】		「生きる」とは、「死ぬ」とは、どういうことなのだろう	
授業における主な活動		評価場面 ◎	
<p>第1次 課題の提示と問題認識の共有</p> <p>ねらい メイナードさんの「11月1日に死にます」より、死の決定権について考察させる。</p> <p>◇核となる問い ◇自分の死を自分で決定することは許されるか。</p> <p>授業における主な活動</p> <p><配付資料></p> <ul style="list-style-type: none"> ・メイナードさんのメッセージ (Youtube より) ・ワークシート「私は、11月1日に死にます①」 <p><主な言語活動></p> <ul style="list-style-type: none"> ・班でワークシートを回し、他者の意見にコメントを記述する。 ・メイナードさんの選択に対する班の意見を全体の場で発表する。 ・授業を通して変化した自分の考えを記述する。 	<p>第2次 問題の捉え直しと考察の深化</p> <p>ねらい 「自分の命」は誰のものなのか考察させる。</p> <p>◇核となる問い ◇尊厳死という「命の処分」は、許されるのか。</p> <p>授業における主な活動</p> <p><配付資料></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート「私は、11月1日に死にます②」 <p><主な言語活動></p> <ul style="list-style-type: none"> ・メイナードさんの選択を“別のシチュエーション”で捉え直し、自分の考えを記述する。 ・命の処分は認められるか、班で検討する。 ・命の処分は認められるか、先哲等の思想を根拠として班の意見を全体の場で発表する。 ・授業を通して変化した自分の考えを記述する。 	<p>第3次 自由設定テーマでの班発表（2時間）</p> <p>ねらい 各班で生命倫理に関わる課題を設定して、調べたことや考察したことを発表し、学びを総括させる。</p> <p>授業における主な活動</p> <p><主な言語活動></p> <ul style="list-style-type: none"> ・各班で適切な課題を設定し、発表のために必要な情報を図書室・コンピュータ室で収集する ・各班の発表を聞き、倫理的視点に立って自分の意見をまとめたり、質問したりする <p>◎ 4時間の授業をふりかえって変化した自分の考えを記述する</p>	
評価観点	思考・判断・表現	評価方法	ワークシート
評価規準	<ul style="list-style-type: none"> ・他者の意見を聞き自分の考えがより深まった点や変容した点を、他者の意見に共感または反論する根拠を挙げながら述べるができる。 ・生命倫理に関する課題を適切に設定し、成果を共有する学びを通して、問題の本質や倫理的側面の考察を深化させることができる。 		